祇園遺跡第18次調査

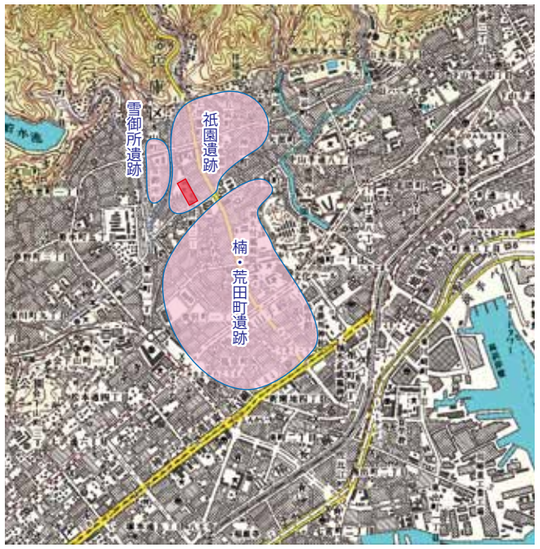
20131019
現地説明会資料
神戸市教育委員会

1 はじめに

治承４（1180）年、都の貴族達が「天狗の所為、･･･悲しむべき所業なり」「洛中騒動、悲泣と云々」と書き残す出来事が起こります。平清盛によって強行された世にいう「福原遷都」です。

清盛の遷都計画の候補地とされたのは、彼が晩年に活動拠点とした摂津国八部郡平野、現在の神戸市兵庫区平野周辺から南に拡がる地域と考えられます。この遷都によって、一帯は、都から移り住んだ平家一門や貴族の屋敷が立ち並んでいたと推定されています。

祇園遺跡は、西に隣接する雪御所遺跡や谷筋を挟んで南に位置する楠・荒田町遺跡とともに、福原京の中枢部であったと考えられています。



祇園遺跡位置図（■：今回の調査地点）

2 祇園遺跡について

第 2・5・15 次調査では、12 世紀後半から末頃の貴族の邸宅に伴う庭園遺構が確認されています。また、第 14 次調査では、平家一門を支えた在地の有力者の邸宅が確認されています。さらに昨年度の第 17 次調査では、園池の石組を確認しました。

3 調査概要

今回の調査は、統合小学校建設と周辺整備工事に伴い実施しています。これまでに、平安時代後期の掘立柱建物群およびそれに伴う井戸、溝、石組遺構などがみつかっています。

主な遺構は、次のとおりです。

建物は、６～７棟を確認しています。いずれも柱を埋め込む構造で、掘立柱建物と呼ばれるものです。

調査区の南寄りを東西に区切るようにみつかった区画溝（SD01）は幅 1.5 ～ 2.5m、深さ 60cm ほどの断面 U 字形で、邸宅内を区切る目的でつくられたものです。中ほどで途切れる部分は、通路になっていたようです。多量の土師器の皿、瓦器椀や白磁などが出土しました。

井戸は、4 基みつかっています。いずれも上部は壊され、井戸枠の一部が抜き取られています。SE01・04 は大きな石を多量に入れて埋め戻されています。また、SE03 は、埋め戻すときに供えられた土師器の皿が出土しています。

石組み遺構は、調査区の南端で見かった東西 4.5 m、南北 3.0m以上、深さ 80 ㎝の土坑を、自然石で四角く囲むものです。内側には水が溜まっていた痕跡もありました。

道路遺構は調査区の西側で、南北 60m、東西 12 mにわたって整地をした後に、南北方向の溝 2 条を約 4m の間隔をおいてに並行に設けています。この 2 条の溝の間には、全く遺構が存在しないことから道路跡と考えられます。

4 今回の調査成果

今回の調査で見つかった遺構は、12 世紀後半から 12 世紀末に属するもので、福原遷都前後の時期と重なります。

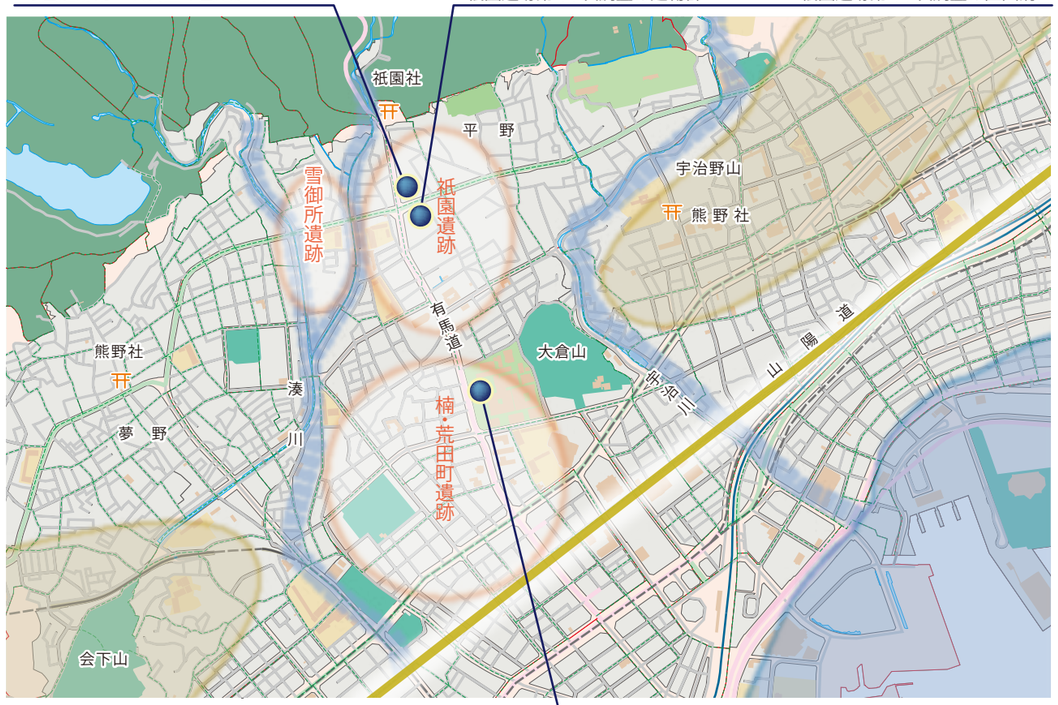
建物や区画溝は方向を揃えるなど規格性があり、また出土遺物も都（京都）で使用されていたものに類似することなどから、平氏政権の有力者の邸宅であった可能性が高いと考えられます。

発掘調査で確認された平氏関連遺跡

祇園遺跡第 2 次調査の園池遺構

祇園遺跡第 14 次調査の建物群

祇園遺跡第 14 次調査の区画溝



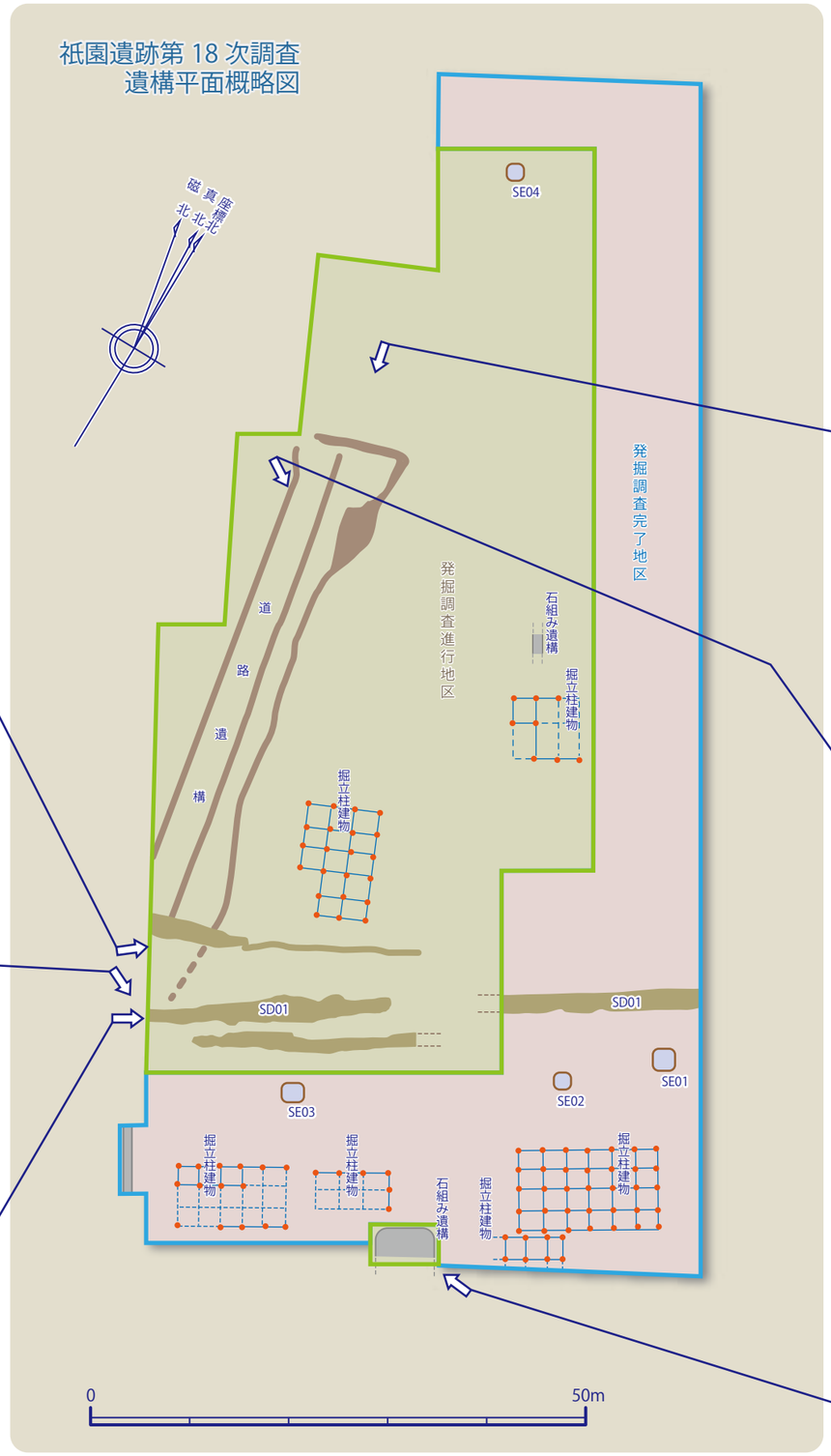
祇園遺跡第 3 次調査出土の玳玻天目小碗

楠・荒田町遺跡第 46 次調査の館の堀跡

6区　区画溝

5区　全景

5区　区画溝



6区　全景

6区　溝の中の土器と礫

5区　石組み